



シジミを追って考えた子供たち

真光寺川を清流にする会
世話人 山口拓郎

和光鶴川小学校・公開研究会の一環として開催された、4年生担当の中島先生の実践報告会に出席させてもらった。初めは真光寺川に対して漠然としたイメージしか持たなかった子供たちが、川に出会い・テーマを見つけ・仮説を立て・実証し・更に問題を追究し夢中になって行く有様がいきいきと語られた。子供たちの関心がシジミに集中し、シジミそのものの種類や生態を究めるばかりでなく、川での生態系のありかた、真光寺川の望ましい姿まで考えるようになって行く過程は素晴らしい。何より嬉しく感じたことは、真光寺川を好きになってくれたことだ。この子供たちは真光寺川を「ふるりの川」として一生忘れることはないだろう。

{11月}

11月3日(月)のつだ丘の上秋まつり
ジュズダマのお手玉づくりで参加する。
あいにく肌寒い一日だった。

11月5日(水)里親通信印刷・一木会
山本、黒田、桜井さんと作業し早々と片づく。
6時から魚民で一木会。1月の片所ウォーキングの計画など。

11月8日(日)定期清掃日
町田ライオンズクラブの方々12名が参加して下さる。鉄パイプ等大型ゴミの回収も行う。
和光鶴小・4年生6名が中島先生と生物調査。シジミ、ヨシノボリ等に歓声。

11月20日(木)水サンプル採集
夜明けが次第に遅くなる。6時、明るくなるのを待ちかねてスタート。朝日が眩しい。
9時に松前さんへお渡しする。

11月21日(金)和光・鶴小、源流探検
4年生43名と中島、小菅先生。山本、黒田さんと参加する。
ブッシュをかきわけかきわけ源流へ。子供たちは「源流にもシジミがいる」と仮説を立ててきたようだ。スコップとふるいシジミを探す。シジミは捕れず101匹の沢ガニを収穫する。観察用として1班1匹ずつ持ち帰る。

{12月}

12月11日(木)里親通信印刷・一木会
山本、黒田さんと印刷し、配布する。
6時から魚民で一木会。2月度のウォーキングの計画などを討議する。

12月14日(日)定期清掃日
前日より激しい雨。6時30分、下堰親水へ。増水し濁流が渦巻いている。山本さんと相談し中止とする。9時、連絡もれがあったらいけないので、念のため開戸親水へ。途中、路上のゴミを拾いながら歩く。雨脚強く結構濡れる。

12月18日(木)水サンプル採集
6時半に家を出る。冬至が近く、7時前のようにやく日が昇る。快晴微風、快い。ここ数日、流れが青く濁っている。広袴公園まで続く。池の水自体が濁っているようだ。

12月29日(月)能ヶ谷神社炎上
夜、8時。けたたましい消防車のサイレン。氏子総代の庄司さんから、能ヶ谷神社が炎上していると連絡がある。外に出てみると神社の辺り紅蓮の炎が真っ直ぐに立ち昇り夜空を焦がしている。1時間、燃え続ける。

12月30日(火)能ヶ谷神社火災対策
8時に能ヶ谷神社に氏子役員集合する。昭和8年建立の拝殿がほぼ全焼。銅葺きの屋根と柱が無惨な姿を白日の下にさらしている。取りあえずテントを張り「火災見舞い・受付」を設ける。30名ばかりの警官による現場検証が行われる。ほぼ、放火と断定されると言うことだ。荒んだ世相の反映か、暗然たる思いにとらわれる。

12月31日(水)能ヶ谷神社・お祓い
火災のため、元旦の神事は中止と決定。代わりに9時から「お祓い」の行事が行われる。「火災見舞い・受付」は繁忙を極める。

{1月}

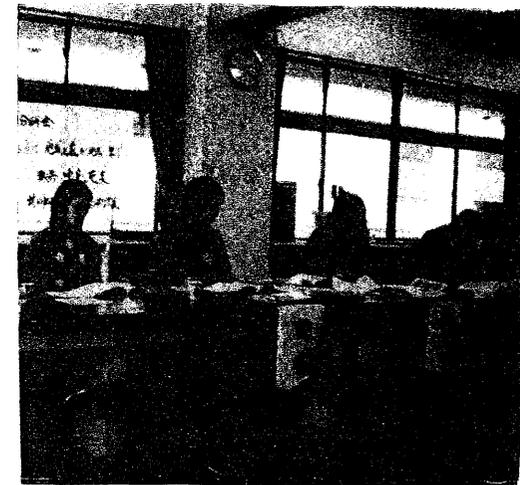
1月1日(木)元日・初詣
快晴、雲一つない空に真っ赤な太陽が昇ってきた。百年に一度の世界同時不況も能ヶ谷神社炎上も全く関わりなく見事である。下堰親水でいつものように観察する。能ヶ谷神社、例年に変わらず初詣の長い列ができる。終日、破魔矢・御札の頒布に忙殺される。

1月8日(木)里親通信印刷・一木会
山本、黒田さんと印刷、配布。ついでに、「片所散策」のレジュメも作成する。
魚民で一木会、水質検査のことなど。

1月11日(日)片所散策
京王多摩境駅に集合、片所谷戸に向かう。柿沢さん始め「小山のホテルと自然を守る会」の3名の方が案内して下さい。3・6ヘクタールとさほど広くはない谷戸だが、武蔵野の自然が残され多様な生き物と植物の宝庫となっている。とりわけ「ホシザクラ」は貴重な品種で会の方々が保存と増殖に努められている。市街地に近く宅地開発計画が浮上したがこの程、町田市に保全の誓願が受理されてほっとされていた。近くのレストランで新年会を兼ねて乾杯！
午後は、小山内裏公園・白山公園・田端環状遺跡をのんびりと散策する。
好天にも恵まれ快適な一日だった。

1月15日(木)水サンプル採集
夜の白むのを待ちかねてスタート。快晴、一面に霜が降りている。開戸親水の下流にカモが群れていた。

1月20日(火)南東建との打ち合せ
下堰親水の近くのGスタンド跡にマンションが建設されることになった。これまでカワラナデシコ等山野草を植えていた場所が消滅してしまいそうなので、南東建に善後策をお願いしていた。1時半、南東建3名、当方5名が下堰に集まる。
川沿いに4m幅の道路と若干の植栽地を残し大部分がマンション用地になってしまうようだ。山野草は道沿いの植栽地や五条池の周辺に植え替えることを了解してもらおう。南東建も好意的に配慮して下さいる。市街地を流れる川としてやむを得ないこととはいえ、自然が次々と浸食されていくことは如何にも残念である。



(研究成果の発表)

1月31日(土)和光鶴小・公開研究会
和光鶴小は、毎年、公開研究会を開催される。今年で16回になるそうだ。全国から熱心な先生方や、教育関係者が集まる。数日前、小菅先生からも出席するようお電話を頂く。多少お手伝いさせてもらったこともあり楽しみにして出かける。
14時から、理科教室で開催された。テーマは「真光寺川の本当のすがたってなに？～真光寺川のシジミを追って考えた子供たち～」だった。4年生担当の中島友美先生が資料をもとに4月から12月までの学習の経過を説明された。
川に対し漠然としたイメージしか持っていない子供たちが、試行錯誤しながら次第に体系的な問題解明の方法を身につけていく過程がいきいきと述べられた。

1, 研究対象を明確にする
2, 仮説を立てる
3, 現場に足を運び現物を確かめ実証する
4, 更に問題を深め、追究する
特にクラスの関心がシジミに集中し「種類」「生態」「他の生物との関連」等深く研究し専門家を訪ねて追究して行く姿には感銘を受けた。多くの示唆に富んでいた。何よりも嬉しかったことは、真光寺川を汚いと感じていた子供たちが、やがて夢中になり、そこに住んでるシジミのシジミ汁まで食べたいと思うようになってくれたことだ。晴れ晴れとした気分で帰路についた。
(この項おわり)